特別講演

ソ連の産業を視察して*

山木正義**

Observations on Industries in U.S.S.R.

Masayoshi YAMAKI

I. はじめに

1960年の夏は多数の日本人がソ連を訪れて，モスクワあたりは一寸した日本人ブームの観を呈したのであるが筆者もソ連産業視察団に加わつてソ連を覗いて来た一人である．この視察団は日ソ貿易をやつている日本海貿易株式会社という商社と日本交通公社が主催し，朝日新聞社が後援して編成されたものであつて，総員 60 名という大世帯で団員には，銀行，商社，運輸，繊維，化学，造船，機械，鉄鋼といつた各種産業界の人々が参加し，インドを経由して訪ソした．(Fig. 1) 7月28日にインド航空機で羽田を立ち，香港，バンコック，カルカッタ経由でニューデリーに到着，そこから，ソ連のジェット旅客機に乗り，ヒマラヤ山脈を東に望み，千古の神秘をひめたカシミール，パミールの山岳地帯を飛び越して中央アジアのソ連領タシケント（ウズベック共和国の首都）に第一歩を印した．ここに2泊し，ついで西に 2,800km を一飛びで黒海沿岸の有名な避暑地ソーチに行き，ここにも2泊し，さらにウクライナの中心地キエフに飛び，同地に4日滞在し，さらに北上してレニングラードに到着，同地にも4日滞在し，最後に列車でモスクワに赴き，約1週間滞在した．帰途は，モスクワからタシケントに直行しふたたびインド経由で8月19日に帰国した．ソ連の産業を視察したといつても，このような3週間ほどの駈け足旅行であり，また筆者の切望した鉄鋼工場の見学は許されなかつたのでまとまつた報告はできないが，とにかくわれわれ日本人にはなじみのうすいソ連の見たまま，あるいは現地でソ連人から聞いたままのことを申し述べたいと思う．

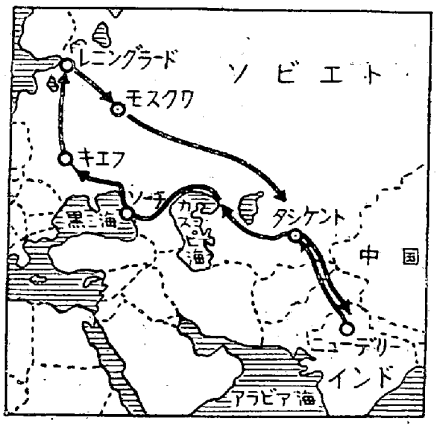

Fig. 1. 旅行経路

II. 工場見学

筆者の見学した工場は Table 1 に示すとおりである．このほかにも二，三の工場あるいは地下鉄の工事現場などの見学も許可されたが，それぞれ専門の班に分れた場合もあるので全部を見学することはできなかつた．Table 1 に掲げてある内容は，われわれの質問に対して工場の責任者が答えたものであるが，なにぶん，ロシヤ語の通訳を介したものであり，なかには意味のとりちがえがあるかも知れない．ことに，数字については，先方が発表を渋ることが相当あり，われわれとしても充分理解できぬこともあつた．これらの工場のうちNo. 2～5は規模としても中以下と推定され，いずれも旧式な工場である．No. 1も専門的にはよく分らないが，規模は大きいが設備などは旧式ではないかと思われる．No. 6～7のみが近代的な大工場といえるものであろう．われわれとしては，この程度の工場をもつと見せて貰いたかつたのであるが，その希望は達せられなかつた．それはともかくとして，これらの工場を見学して共通にいえることを列挙すれば，①工場の組織はいわゆる line and staff system であつて，ほぼ日本の場合と同様である．その一例として Fig. 2 に No. 4 の工場の組織を示しておく．②工場の運営のことであるが，すべての工場は国か地方自治体（たとえばキエフ市）に属している．すなわち，大部分は国営でごく一部が共同組合の経営であ

* 昭和35年12月7日東京都千代田区東京都立産業会館において開催の特別講演会で講演

** 東都製鋼株式会社東京製鋼所製造部長　工博

Table 1. 見学工場一覧

番号	工場名	所在地	作業内容	従業員数	労働条件	賃金(ルーブル)*
1	スターリン繊維工場	タシケント	綿糸，綿布の製造 スピンドル数 30万 織機 6,200 台	17,000人 70～80%は女子 技師（学卒）500 人	拘束 9時間 実働 8時間 3交代制	450～2,000 平均 750
2	リキオール ウオッカ工場	キエフ	ウオッカ，リキュール等の製造 10万本/日 （500 瓦入り）	250 人 うち 160人は女子	実働 7時間 1交代制	550～850 平均 700 技師 1,200 熟練工1,100～1,200
3	ジョルジンスキー電車工場	キエフ	電車，トロリーバスの修理，新造．1ケ月に 新造 {電車 5～6台 トロリー 3台 修理 {電車 30台 トロリー 15台	1,000 人以上 うち20%は女子 （技術員 130 人 事務員 30 人）	実働 7時間 （重労働は6時間） 2交代制	980～1,000(平均) 熟練工1,300～2,000 養成工(6ケ月) 410 工場長 2,000 （他にボーナス）
4	レニングラード計器製造工場	レニングラード	ノギス，ゲーヂ，マイクロメーター，ダイヤルゲーヂ等 （精度 1/10ミクロンまで）	2,000人弱 50%は女子 （技術員 260人 検査員 120人 工員 1,400人 事務員 200人）	2交代制	700～1,300 平均 1,000
5	コトリヤコブ重機械製作工場	レニングラード	減速機，エスカレーター，選鉱機の製造．鋼材の使用量 1,000～1,500トン/月	2,000人 10%は女子	2交代制	1,100～2,000
6	第一国立ベヤリング工場	モスクワ	ボール，ローラーベヤリングの製造 15mm～1·5m のもの （重量4トンまで） 大量生産のものは全自動式	10,000 人以上 50%は女子 技師，職員は14%	2交代制	450～2,500 平均 850 工場長は 3,000
7	リハチョフ自動車工場	モスクワ	年産12万台のトラック 〃 〃 冷蔵庫 トラック 4t100HP 70% 〃 2·5t 30%	40,000 人 30%は女子	2交代制	750～3,000 平均 1,000

* 本文末の註参照のこと．

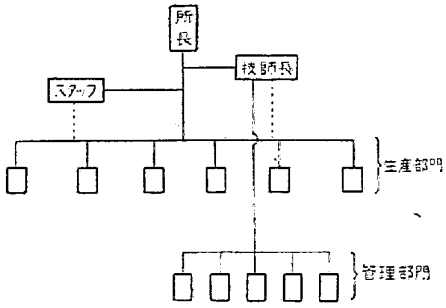

Fig. 2. 工場の組織の例

り，私企業は一つもない．工場長は国（市）から任命され，工場の設備計画，生産計画などは中央で立案されたものが各工場に伝達される．工場は指令どおり物を生産すればよい．工場長の役目は，指令された物を造るのに必要な原材料を買つけ，労働者を使つていかに能率よくノルマ以上の物を生産するかにある．販売などといつた営業的な面はなにも心配する必要はないし，設備の償却も工場としては考える必要はない．販売代金から原材料費と労務費を差引いたものが，その工場の利益になるわけである．ところが製品の単価，原材料の単価，時間当りの労務費はすべて公定であるから，工場としての利益を生むためのうまみはあまりなく，一定時間内の生産量を増加することしかない．すなわち利益を生むためには，ノルマを少しでもオーバーして生産することしかないわけである．この利益はいつたん，中央に納入され，ノルマを超えた分の何%かが報奨金として工場に戻される．職場から選出された労働組合の代表者と工場長が会議を開き，その金の処分法を決定する．使途は工場の厚生施設に振向けたり，ボーナスとして賃金に追加したりする由である．③労働条件は，最近まで実働8時間であつたが，順次改訂されて現在は大部分が実働7時間になつている．賃金は Table 1 のごとく，職種により明

らかに格差があり，決して悪平等ではない．余談であるが，実力のある者，とくに大学卒業生などは優遇されるので上級学校の入学試験は競争率が高い由であり，有名な大学の卒業生はそのことを示すためのバッヂを誇らしげに胸につけているのが見受けられる．④われわれの見た感じでは，生産規模の割合に従業員の数が多過ぎるように思えた．極端な例として No. 3 の工場（Table 1参照）の場合では，この半数の従業員でやつてゆけるのではないか，いや，それでやつてゆかなければ，日本では採算がとれないだろうという意見さへ団員の中にあつた位である．⑤予想はしていたものの，女子従業員の占める割合が多いことも特色である．自動車工場でも30%は女子であり，その職種も，軽作業はもちろん，鋳物工，熔接工などにもおよんでいる．起重機の運転工などはほとんど女子であり，しかも年配者が多く見られた．これは，ソ連全体で女性が男性より 20% 多く，とくに30 才以上では，35% も多いということからして当然の成行きだと思われる．⑥一般に職場の環境は良くない．採光，換気などの点からいつても悪いし，また，従業員の服装もまちまちで相当にひどいなりをしている．職場ではまず生産第一で，ほかのことは犠牲にしているといつた感じである．⑦併し，先方の話では，職場外の福利施設は完備している由であり，事実われわれもNo. 1の工場(Table 1参照)付属の立派なクラブに案内された．通訳は，宮殿と訳したが，文字どおり宮殿と見まがうばかりの豪華な建物であり，内部の施設も完備していた．どの工場にも専属の学校，幼稚園，託児所（夫婦共稼ぎが多いため），病院がありスポーツも盛んである．No. 7の工場(Table 1参照）では，サッカー・チームが 70もあり，工場内で優勝したチームは外国にも遠征するといつていた．⑧また教育費，医療費は無料（家族も含めて）であり，家賃も少額（収入の数%）だから，実質賃金は 40% 程度ふえているということである．

福利施設の話が出たのでもう少し述べると，勤労者に対する広い意味の福利施設としてサナトリウム(保養所)がある．さきにも述べた黒海沿岸のソーチ付近はソ連唯一の温暖多雨の地帯であつて景色もよく，樹木が繁茂し温泉も湧いている．海水浴もできるというわけで，日本でいえば，箱根と熱海と湘南地方の海水浴場とを一緒にしたような所である．このソーチには，50ケ所のサナトリウムがあつて同時に 14,500 名の人々を収容できる由である．われわれは，一例として鉄鋼労働者のためのサナトリウムを見学した．ここはベッド数 400，医者 12人，その他の従業員 250 人から成り，建物，庭園ともに誠に立派なもので豪壮な海浜ホテルといつた感じである．ここに入所した人は，医者の指導により神経痛とリウマチの温泉療法をやるのであるが，定められた治療日程により4週間滞在することになつている．サナトリウムといつても大病人の入る所ではなく，勤労者が休暇を貰つて保養かたがた，ソ連のような北国人の罹りやすい神経痛の温泉療法をしたり，日光浴や海水浴をしたりするといつたリクリエーションの場所である．費用は 1,800 ルーブルであるが，30% を個人負担すればよく，なかには全額免除の人もある由である．

ソーチの街にはサナトリウムのほかに広大な植物園や博物館もあつて，休暇を楽しむ人々や外国（主として東欧諸国）からの観光客で溢れているありさまは日本の避暑地と同様な風景である．黒海の波が打ち寄せる海岸には早朝からビキニスタイルの偉大な体格の女性を交えた多数の人々が日光浴と海水浴を楽しんでいるのもわれわれの国と少しも変らない．俗悪な広告や，いかがわしい遊戯場などがないだけに，かえつてすがすがしさをおぼえる．それにしても全ソ連の工場で真黒になつて働いている多数の人々のうち何%が，しかも何年に一度位この楽しみを味わえるのかが一寸気にかかつたことである．

III. ソ連の鉄鋼業

さきに述べたように，われわれは鉄鋼工場の見学は許されなかつたが，たまたま筆者が個人的に現地で鉄鋼関係者から聴取した談話や，入手した文献によつて断片的ではあるが，ソ連の鉄鋼業について簡単にふれたいと思う．

1．鉄鋼基地

ソ連には4つの鉄鋼基地がある．第1はウクライナ地方であつて，クリボイログの鉄鉱石とドンバスの石炭といわれる位に，鉄鉱石と石炭をともに産出する地帯で，ここはソ連の近代的製鉄業の発祥地である．しかし，戦略上からの必要もあつて，1934年頃からウラル山脈の東側に第2の基地を建設し始めた．この付近はもともと鉄鉱石を産出するので，昔から小型木炭高炉などによる小規模な製鉄は行なわれていたのであるが，石炭がないため，さらに東方のカラガンダ地方から石炭を運び，スベルドロフスクを中心として近代的な鉄鋼業地帯をつくつたのである．第2次大戦中には，ウクライナの設備を移設したこともあり，現在はこのウラル地方がソ連最大の鉄鋼基地であり最新の工場はここに集つている．

1956年には，東部地方に年間 1,500～2,000 万トンの銑鉄を生産する第3鉄鋼基地を建設すべきことが決定され現在建設中である．この第3基地は，エニセイ河左岸の西シベリヤ地区と，その右岸からバイカル湖の西に

またがる東シベリヤ地区の二つに分けられるようである．この地帯には鉄鉱石は産出するが原料炭に乏しいので，カラガンダおよびクズネッツの石炭を運んで使用する．1965年に完成の予定で，コンビナート式の大工場が建設されつつある．ソ連ではさらに第4の基地として，バイカル湖以東の極東地方を予定して建設を開始している．ソ連が重工業部門に，とくに鉄鋼業に力を入れたのは 1935 年以降であるが，今や1972 年までには米国に追付き，1975年には之を追抜くという計画で建設を進めている．

2．生産量

最近におけるソ連の鉄鋼生産量は急上昇を示しているが，統計によれば Table 2 のごとくである．そして，1959年に始まる7カ年計画の最終年度である 1965 年度の目標は銑鉄 6,500万～7,000万 t，粗鋼8,600万～9,100万 t，鋼材 6,500万～7,000万 t である．

Table 2. 鉄鋼生産量（単位 100万t）

年	鉄鉱石	銑鉄	粗鋼	鋼材
1940	—	—	18	—
50	—	—	27	—
53	—	—	38	—
54	—	—	41	—
55	75	33	45	—
58	88·8	39·6	54·9	42·9
59	94·3	43	59·9	47
60	105·0	47	65	50·3
(計画) 1965 (目標)	150～160	65～67	86～91	65～70

3．原料

鉄鉱石の生産量は Table 2 のごとくで，1965年度には1億5,000万～1億6,000万 t を見込んでいる．しかし鉱石の品位はあまり良好ではなく，ウクライナ産のもので Fe 分が 36～55% であるが，東へ移るにつれて品位は下り，かつ粉鉱が多くなつているようである．石炭の生産量は，現在のところ，年間約5億 t に達しているが原料炭としては1億 t 程度である．

4．製銑

高炉による製銑作業は，能率のよいこと米国や西欧の2倍で世界一だと自負している．たとえば内容積 1,300 m^3 の炉で24 h に 2,000 t 出銑していると誇つている．これは酸素を使用しないときの数字の由．粉鉱の処理法としてのペレットの研究も盛んで自熔性焼結鉱の使用割合も多いらしい．また 1,200°C 位までの高温の熱風の使用，炉頂ガス圧の増加，酸素あるいは天然ガスの吹込みなども行なわれている．とにかく鉄鉱石の条件もあまり良好でなく，原料炭もSが高い(1·8%位まで）にもかかわらず銑鉄の品質はなかなかよいようである．

5．製鋼

平炉の能率もよく西欧より 50%，米国より 25% も能率が高いと称していたが，具体的な数字はあまりきけなかつた．ただ製鋼能率のよいことは，銑鉄の良質なことも一つの大きな原因のように思える．上吹転炉に対する意欲も盛んで，今後は棒鋼，形鋼，板などの普通鋼は，転炉鋼の占める比重が大になるであろうといつている．なお，さらに将来のことを考えると，これから発展する東部地区では，とくに原料炭に乏しいのでコークスを使う高炉製銑法にのみ頼ることは無理であると思われ，したがつて粗悪炭，天然ガスを利用した火力発電による電気製銑法を含めたいわゆる直接製鉄法にも力を注ぐのではないかと思われる．

連続鋳造法はすでに実用段階に入り，200万 t /年を生産している由で，鋼種としては炭素鋼，珪素鋼，ステンレス鋼である．

6．圧延

圧延関係のことについては，ほとんど何も知ることができなかつた．相当進歩はしていることと思われるが，製銑，製鋼部門に比すれば，若干遅れているのではなかろうか．ことに鋼板の生産能力が需要に対して少ないことが想像される．すなわち 1950 年の鋼材生産高の品種別割合において板は 25%，パイプは 8% であつたが将来は板を 40～45%，パイプを 13% に上げるべく努力が払われている．

いわゆる軽量形鋼の研究も盛んであるが，鋼板，帯鋼類を冷間で成形するものばかりでなく，小さなビレットから熱間で製造することも行なわれているようである．

7．研究機関

鉄鋼の研究機関としては，モスクワに中央研究所 (The general scientific research institute of ferrous metallurgy in Moscow) があり，各共和国には地方の研究所がある．中央研究所は5つの部門に分れている．

(1) Steel
(2) Ferro-alloys (直接製鋼法を含む)
(3) Precision alloys
(4) Metallurgical problems (continuous casting を含む)
(5) Physical metallurgy (slag—metal 間の反応などを含む)

また，その人員構成はつぎのごとくである．

Scientific research	学卒者	600 人
	助　手	350 人
Experimental factory	学卒者	100 人
	助　手	650 人
管理部門		100 人
	計	1,800 人

8. 労働条件

3交代制の場合の作業時間表の一例は Table 3 のごとくである．深夜作業は7時間であるが賃金は8時間分が支払われる．その代り深夜作業手当のごときものはない．休日出勤に対しては，2倍の時間分の賃金が支給される．

Table 3. 作　業　時　間　表

作業開始時刻	食事時間 (mn)	作業終了時刻	労働時間 (h)
23°00′	20	6°20′	7
6°20′	20	14°40′	8
14°40′	20	23°00′	8

工員の給料は 600～1,800 ルーブル/月で，平均 1,000 ルーブル/月，程度であつて，最高の melter になると 4,000ルーブル/月もとる者もある．中規模の工場の工場長は 4,000ルーブル/月（他にボーナス 3,000 ルーブル位），部長クラスで 3,000 ルーブル/月（他にボーナス 2,000 ルーブル位）程度の由である．ちなみに鉄鋼の価格は commercial bar で 600ルーブル/t である．

なお，鉄鋼業では女子従業員の比率は 20% 位の由である．

9. 1960年における主要命題

1960年におけるソ連鉄鋼界の技術的命題はつぎのごとくである．

① 製　銑

鉱石予備処理の改良，焼結鉱の増産と品質向上，ore bedding，天然ガスと酸素の使用普及，送風温度と炉頂ガス圧の上昇

② 製　鋼

酸素や圧縮空気の使用の普及とその効率向上，溶接取鍋の使用，スクラップ予備処理の改善，連続鋳造，真空鋳造，真空精錬の習熟，炉修期間の短縮，装入重量の増加，製出鋼歩留りの向上

③ 圧　延

圧延速度の上昇，鋼塊加熱法の改善，新しい断面寸法の形鋼の開発，軽量形鋼の増産ほか

IV. ソ連旅行の印象

最後に，われわれがこの短い旅行の間に見聞して印象に残つたソ連の市民生活あるいは国情といつたようなことを申し述べたいと思う．

まず第一に経済的な面であるが，もちろん土地は全部国有である．その代り1人に対して約 330m² までは無料で貸与される．家屋は私有が許されるから個人で家を持ちたいものは，貸与された土地に家を建てればよいわけで，建築費用については年賦払のごとき方法もある由，したがつて別荘をもつている人もある．遺産の相続は認められていて相続税はない由，この点は日本よりよいかも知れない．個人商店はなく，すべて国家か共同組合の経営である．街頭の靴みがきにいたるまで組合員である．勤労者の収入は，すでに述べたとおりであるが，一人で生活するには最低 400 ルーブルあればよいそうで，工場や街路の掃除人とか，名所旧跡の番人とかいつた階級の人（老人が多い）は，この程度貰つている．老人はこの他に年金が入る．すなわち 20～30 年以上勤続して男子は 60 才以上，女子は 55 才以上になると平均給の 50% 以上の年金がつく．この年金は現に働いていても遊んでいても貰える．職業的には，学者，技術者，バレリーナなどは高給取りである．モスクワ大学の教授は 2,000～4,000 ルーブル，旅客機のパイロットは 8,000 ルーブル，スチュアデスが 1,900 ルーブル位の由，われわれに随行した若い通訳は 1,320ルーブル貰うといつていた．所得税は収入高に応じて累進することはもちろんであるが，日本に比して総体的に低い（之は直接税に比して間接税の比重が多いためと思われる）すなわち最低 150ルーブル/月を超す分に対しては 5·5%，それから順次累進して 500 ルーブル/月を超す分に対しては 10%，最高の税率は 1,000ルーブル/月を超す分に対して 13% 止まりである．夫婦共稼ぎが多いが，妻の収入は夫の分と加算せず別々に課税される．個人でも銀行に無制限に預金ができ，利子は定期で 3%，普通で2%の由である．物価については，必需品はそれほど高くはなく，さきに述べた 400 ルーブル/月の収入でも暮せないことはないが，少しぜいたくな物は相当高い．また日本の物に比べて一般に品質は決してよいとはいえず，したがつてこの点を考えれば大ていのものは高いといえる．日用品のうち衣料（繊維品）はとくに高く感じる．書物，レコードなどは比較的廉い．酒類に対する間接税率も高く，売価24ルーブルのウォッカは工場原価はわずかに2ルーブルの由である（Table 4）．

ソ連の労働者が実際にどんな暮しをし，どんな希望をもつて働いているかの具体例として，レニングラードの工具工場に勤めている一人の労働者の話を紹介すると，

Table 4. 物価の一例

品名	価格ルーブル*	品名	価格ルーブル*
男の背広生地 (1m)	400	乗用車 小型	25,000
		〃 中型	40,000
女の服地 (1m)	100	入場料	
		サーカス	16
ネクタイ	10～30	映画	5
冬オーバー (男)	1,400～2,200	バレー	26
		タカラクジ	3
冬上衣 (男)	250～800	生ビール	2·2
ソフト帽	150	卵(3コ)	2
皮靴	200～290	ウオッカ	24
万年筆	50～60	ホテル宿泊料 (モスクワ)	
ラジオ	250～715		
テレビ	2,600	3食附	68
カメラ	300～1,600	2食附	48
スクーター	5,000		

* 本文末の註参照のこと.

彼は55才で30年間勤続し，妻と二人暮しである．収入は1,200ルーブル/月で，他にボーナス（ノルマの超過分）が300ルーブル/月程度入る．収入の8%は家賃（36m² のアパート），50～60%は食費，残りは衣料費，娯楽費になる．毎月300ルーブルずつ貯金して，最近9,000ルーブルで中古の自動車を買つた（自家用車をもつているのは，4,000人の従業員のうち，まだ7～8人の由）．60才になれば年金が貰える．自分は平和と住宅を希望する!! ということであつた．レニングラードは900日も独軍に包囲され，60～70万人の一般民衆が餓死その他で死亡し，キエフは2年間占領され，45%の建物が破壊されるといつたような戦争の惨禍を身をもつて体験しているだけに，平和を希望することは，一般大衆の真実の声だと思われる．

第二にわれわれのうけた印象は，一般民衆は予想外に明るく，豊ではないが安定した生活をしているということである．一般市民は個人的には非常に親しみがあり，人種的偏見もなく，下手なロシヤ語で道を尋ねても親切に案内してくれるし，英語の話せるロシヤ人はよく話かけてくる．筆者の例では，キエフの街で行きずりに会つた一人のロシヤ人（職業はパイロットの由）は，英語で何かと話かけて来た末デパートに連れて行き，筆者の子供の土産にといつて玩具を買つてくれたことがある．このように個人的には親しみやすいが，集団とか組織体になると話が違つてくる．サービスの悪いことにも驚く．レストランに入つても料理がくるのに一時間も待たされたり，デパートの売子の愛想のないことおびただしいものである．これらは公営制度の弊害の一つであろう．生活の安定にもつとも関係の深い衣食住のうち，衣食については，バラエティには乏しいが量的には不足せず，今や配給制度は撤廃されすべて自由販売である．ただ質の良い食料品などを買うためには，行列もしなければならないといつた状態のようである．一番遅れているのが住で，近代的なアパートが続々建てられてはいるが，まだまだ全部には行き渡らないようである．

第三に，市街が非常に清潔できれいな印象をうけた．キエフにしてもレニングラードにしても誠に清潔でタバコの吸がらや紙屑が全然落ちていない．その代り目抜きのとおりには吸がら入れが数十メートルごとといつていい位に置いてある．また各都市とも街路樹や花壇が多く，キエフなどは全市街が公園のごとき観を呈している．しかも手入れが非常によく行届いて居り，もちろん花壇を荒らすような者はなく，皆で眺めて楽しんでいる．こういつたことは市民の公徳心の問題に帰すると思われる．そういえば，バスやトロリーバスには車掌がおらずセルフサービスである．筆者も何度かバスに乗つたが皆正直に金を払つている．不正が発見された場合には罰則が重いということもあろうが，やはり公徳心ということが根本になければできないことであろう．そしてそれは子供のときからの教育の徹底ということに帰せられるのではなからろか．

すなわち第四に，ソ連は実に教育に熱心な国だという印象を受けた．どこの都市へいつてもガイドがその市の学校はもちろん，幼稚園の数まで誇らしげに披露するし，工場に行けば，付属の学校の数を挙げる．またピオニールという名の林間学校式のものが沢山あつて，7～14才位の子供を学校外で集団的に訓練して日常生活の躾教育を行なつている．余談ながら，ひるがえつてわが国を見た場合，子供に対する行儀作法の訓練がいちじるしく欠如していると思われるが如何なものであろうか．盗人の少ないことも自慢のようであるが，われわれの経験でもたしかに忘れ物をして失くなつたり，金を盗まれたりしたことはなかつた．なかにはためしにホテルの室に金を落しておいた人もあつたようであるが，そつくりそのまま残つていた由である．さらに娯楽のことにふれると，まつたく健全娯楽一本槍で市民が楽しむのは映画，バレー，オペレッタ，サーカス，音楽会位のもので，これとて夜間に開演されるだけである．運動はサッカー熱が盛んである．一般に読書熱も盛んで政府も大いに奨励している由．前述のごとく書物が廉いのもその故だとも思われる．ついで乍ら街頭では酔払いをほとんど見かけなかつた．公衆の面前で酒に酔つて醜態をさらし他人に迷惑をかけた者は厳罰に処される由．第一，日本のようなバーとか飲屋はまつたくなく，せいぜいセルフサービ

スのビヤホールかレストランで食事をしながら飲むのであるから，街頭で泥酔する心配はないともいえる．もちろん自宅やホテルの自室ではいくら呑んでも自由である．

最後に，第五番目としてわれわれの印象に一番残り，かつ現在のソ連を理解するのにもつとも重要なことだと思われるのは，経済の凹凸，アンバランスということである．人工衛星，ロケット，ジェット機はすばらしいしモスクワにある常設の産業博覧会にはこれまたすばらしい工業製品が陳列されている．高能率の工作機械，250 mmにもおよぶ超厚板の溶接機，巨大な建設機械等々，何をとつても目をみはるものが多いのに，われわれの見学した工場は大部分誠に旧式でお粗末である．電気洗濯機，電気冷蔵庫などの家庭用品は，ショーウィンドーに見本程度には飾つてあるが，店内には決して豊富には並んでいない．値も高いが，品不足で中々手に入らないといつた実状である．道行く人の服装も夏のことではあるが，女性はワンピースが大部分，男性は開襟シャツ，まれには上衣を着ていてもほとんどノーネクタイといつた程度である．デパートにいつても消費物資の量はともかくとしてバラエティに乏しく質も悪い．一般には女性の服飾品が出廻つたところで，デパートは買漁りの女性で一杯だといつていい位である．男性用品は誠に貧弱でまだまだこれからといつたところである．ソ連でもまずおしやれは女性からといつた所であろう．こういつた経済の矛盾はどこに由来するものであろうか．すべてこれまでとられて来た軍事優先主義に依るものであろうことは疑問の余地がない．最新の技術，設備はすべて人工衛星を上げるために，ロケットを打出すために使われ民需につながる一般工場にはその順番が廻つて来なかつたのである．事実われわれが見学した旧式工場の管理者は，現在はこんなに粗末だが，あと何年たてば新式の工場になるのだということを必ず強調していた．しかし今や情勢は変り始めた．数次にわたる5カ年計画の成果がみのり，軍事，経済の両面で資本主義国に追付く自信が生れ，かつまた革命以来40年の教育の効果もあがり，今やソ連国民の大半は子供のときから筋金入りの教育を受けた連中で占められいる．滅多なことで動揺するものではない．かような判断のもとに徐々に経済のアンバランスを取り戻す政策がとられ始めて来たのだと思われる．これ迄の一にも二にも耐乏生活を強いられた暗い夜があけて生活水準の向上というバラ色の空が一般民衆にも見え始めて来たのが現在のソ連の現状ではなかろうか．今後のソ連の急テンポな経済的発展振りこそわれわれの注目すべきことであろう．

（昭和36年1月5日寄稿）

（註）本文中においては1ルーブル＝90円が公定レートであるが，実勢は1ルーブル20～25円が妥当ではないかと思われる．尚，1961年1月1日よりルーブルの呼称改正と対外価格切下げにより公定レートは新ルーブルでは1ルーブル＝400円となつた．